

研究滞在記

無機先端機能化学研究室 平井 慧

私は若手研究者国際短期派遣事業で約 1 ヶ月間、フランスのモンペリエに滞在しました。モンペリエはフランス南部の大都市のうちの一つであり、古い歴史的な家屋と新しい町並みが混在した都市となっています。また、モンペリエ近郊にはアヴィニョンやカルカソンヌといった歴史的建造物のある都市が数多くあります。私はモンペリエ大学にて **Master in Materials Science Exploring Large Scale Facilities (MaMaSELF)** のサマースクールプログラムの参加及び **Werner** 教授との共同研究を行いました。MaMaSELF のプログラムでは同年代の学生が欧州を中心に世界中から集まっており、共に講義を受け、講義後には寮でバスケットボールをするなど交流を深めることができました。本プログラムは複数の大学にまたがって学位を取得することができる珍しいシステムであるため、自ら志願してこの制度に臨んだ学生らは研究者としての意識が高く、良い刺激を受けました。また、共同研究においては私の所属する研究室には無い装置を用いた測定をすることができ、異なる視点からのアプローチをすることもできました。

フランスで生活していて驚かされたことがいくつかあります。一つ目は私が思っていた以上に日本のものを見かけたり聞いたりすることがありました。日本製の実験装置やコピー機などを見かけましたし、クラスメートは日本のドラマやアニメをよく見ているそうです(私はドラマやアニメをあまり見ないので、彼らの方が遥かに詳しかったです)。二つ目は、時間がゆったりと流れているように感じられ、周りの人ものんびり過ごしているように感じました。忘れかけていた感覚に新鮮な気持ちと心地良さを感じました。

「Bonjour」フランスでは人々がどこでも気さくに挨拶を交わしてくれます。また、電車に乗れば気軽にたくさんの史跡を回ることもできます。人と時とが交差する町で過ごした 1 ヶ月は、今後の私の研究や人生にとって貴重な経験であったと考えています。最後に、貴重な経験をさせていただいたことに感謝致します。



MaMaSELF 所属の学生たちと観光した時の写真。

左から 1 番目。